江戸川区立南葛西第三小学校
学力向上部

令和６年度　全国学力・学習状況調査
調査結果と改善の取組

４月に実施した６年生対象の全国学力・学習状況調査の調査結果概要及び今後の改善の取組について御報告します。

平均正答率(%)

	国　　語	算　　数
本　　校	72.0%	71.0%
東　京　都	70.0%(+2.0%)	68.0%(+3.0%)
全　　国	67.7%(+4.3%)	63.4%(+7.6%)

※（　）の数値は本校と東京都平均及び全国平均の差を表しています。

正答数四分位

	国　語（全14問）			算　数（全16問）		
	本　　校	東 京 都	全　　国	本　　校	東 京 都	全　　国
第３四分位	12.0問	12.0問	12.0問	14.0問	14.0問	13.0問
第２四分位（中央値）	11.0問	10.0問	10.0問	12.0問	12.0問	11.0問
第１四分位	8.0問	8.0問	8.0問	9.0問	8.0問	7.0問

※「四分位数（しぶんいすう）」とはデータを小さい順に並び替えたときに、データの数で４等分した時の区切り値のことです。４等分すると３つの区切りの値が得られ、小さいほうから「25パーセンタイル（第１四分位数)」、「50パーセンタイル（第２四分位数または中央値)」、「75パーセンタイル（第３四分位数)」と呼びます。

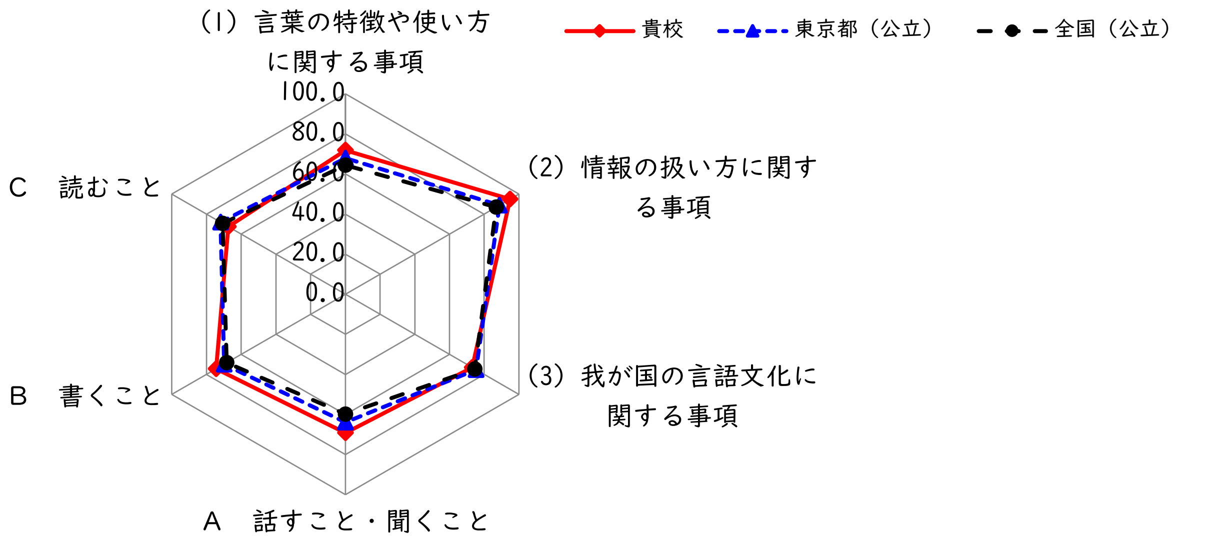
今年度は国語、算数ともに東京都及び全国の平均正答率を上回る結果となった。両教科ともに東京都及び全国平均と2%～5%の差が見られた。全国平均と比べ、国語は＋4.3%（東京都平均とは＋2.0%）、算数は＋7.6%（東京都平均とは＋3.0%）であった。

また本校の平均正答数は、国語14問中10.1問、算数16問中11.3問となり、第２四分位（中央値）で見ると、国語で11問、算数で12問であった。国語では東京都及び全国の平均正答数を上回り、算数では全国のみ平均正答数を上回った。（東京都とは同じ平均正答数だった。）

そこで、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科の詳細分析を行い、授業改善の取組に努めていく。

【国語】

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



集計結果

分類		区分	平均正答率（%）			差	
			本校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の領域	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.8	67.9	64.4	3.9	7.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	94.9	88.8	86.9	6.1	8.0
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.1	75.3	74.6	-2.2	-1.5
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	69.2	63.9	59.8	5.3	9.4
		B 書くこと	74.4	69.9	68.4	4.5	6.0
		C 読むこと	67.5	71.9	70.7	-4.4	-3.2
問題形式		選択式	75.8	73.0	69.9	2.8	5.9
		短答式	62.2	63.1	59.7	-0.9	2.5
		記述式	66.0	63.7	64.6	2.3	1.4

分析

「学習指導要領の領域」における「知識及び技能」の「(３) 我が国の言語文化に関する事項」と、「思考力、判断力、表現力等」の「Ｃ　読むこと」の２区分以外は、東京都及び全国の平均正答率を上回る結果となった。東京都及び全国の平均正答率を下回った２区分のうち、「思考力、判断力、表現力等」の「Ｃ　読むこと」では、物語における登場人物の相互関係や心情を描写を基に捉えることができていない児童がいた。登場人物の言動や様子を正確に読み取り、人物像を想像したり、自分の考えを工夫して表現したりすることを苦手とする児童が少なくないことが考えられる。また「知識及び技能」の「(３) 我が国の言語文化に関する事項」では、自分の考えを広げることができるという読書活動の意義を捉えられていない児童がいた。

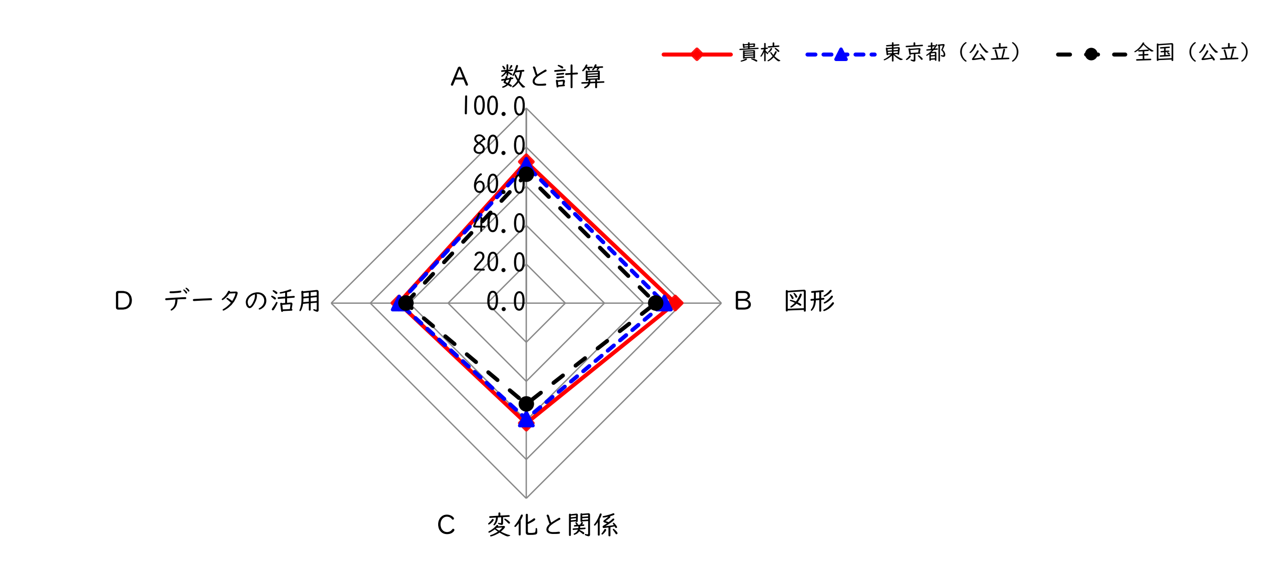
このような結果から、今後の学習において、物語の内容を正確に読み取る力や、自分が感じたことを文章で表現する力を育成することが重要だと考える。

授業改善

□国語科や読書科に限らず、様々な教科を通して読んで感じたことを文章に書き表していく経験を積み、文章を書くことに慣れ親しむ。また、国語科においては物語の内容を正確に捉え、登場人物の思いを想像したり、考えたりしたことを話し合う。
□国語辞書・漢字辞典の活用（３年生以上）を積極的に取り入れて、言葉の知識を増やす。
□朝学習の充実を図り、読解力や文章力を育む。
→５・６年生はよむＹＯＭＵワークシート(読解力)、１～４年生は百マス作文等(文章力)。
□朝読書のフル活用(15 分間読み続ける)を図り、読解力を育み、活字に慣れ親しむ。

【算数】

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



集計結果

分類	区分	平均正答率（%）			差	
		本校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の領域	A　数と計算	72.4	70.6	66.0	1.8	6.4
	B　図形	76.3	70.8	66.3	5.5	10.0
	C　測定					
	C　変化と関係	61.5	59.3	51.7	2.2	9.8
	D　データの活用	65.4	65.2	61.8	0.2	3.6
問題形式	選択式	81.3	79.2	75.3	2.1	6.0
	短答式	70.7	67.6	62.0	3.1	8.7
	記述式	57.7	55.1	51.0	2.6	6.7

分析

「学習指導要領の領域」における「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の４区分全てで、東京都及び全国の平均正答率を上回る結果となったが、その中で平均正答率が下位(70%未満)だったのは２区分あった。「変化の関係」では、速さを基にして道のりと時間の関係を捉えたり、道のりを基にして時間と速さの関係を考えたりすることができていない児童がいた。「データの活用」では、円グラフから割合を読み取ったり、表や折れ線グラフに示された数値から立式したりすることができていない児童がいた。また「データの活用」においては全 16 問の中で無回答の割合が上位であることから、表やグラフを基に必要な情報を正確に読み取り、言葉や数で記述することを苦手とする児童が多いと考えられる。

このような結果から、今後の学習において数量の比べ方や表し方をについて理解し、数量を求めたり、必要なデータを収集し表やグラフにまとめ、言葉で説明したりすることが重要だと考える。

授業改善

- □江戸川区算数授業スタンダードで示された授業展開である中、式や図、言葉を用いてまとめる自力解決の場面及び、様々な考えに触れる交流活動を設定し、児童一人一人の思考力を高める。
- □身近な事象と関係付けて指導を行い、学習への意欲につなげる。また、図や数直線等の具体物を提示し、答えの求め方に必要な情報を見付け出す活動を取り入れ、筋道立てて考えていくことのよさを実感させる。
- □学力プロジェクト(４・５年生対象)の結果を基に、児童のつまずきを把握し、理解が低い学習内容を授業の時間に復習する。また、学校全体で４・５年生の苦手な範囲を共有し、下学年のうちに苦手分野の克服を目指す。
- □東京ベーシックドリルプリントを活用し、前学年の計算問題や既習内容を繰り返し取り組み、定着を図る。
- □タブレットアプリ「ミライシード」を活用し、既習内容の確認や当該学年の学習の復習を行い、定着を図る。